

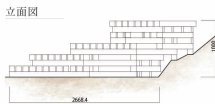


だん  
段状に配置されたデッキ  
の持つが舞台の  
景色を眺めなが  
団員の場、

「この景色を眺めたい場所を  
大抵の地形で決めてくれ  
時は子供の遊び場、時には  
焚火を、依り合っている  
手を握り合っている」

# 川上村木匠塾 2016

**00 提案**  
敷地調査を経て、現状として遊歩道の魅力に気付かず人が流れてしまっているというのが問題点として挙げられた。  
遊歩道には様々な表情がある。春には桜が舞い、夏には花火が咲く、秋には降雪の音に耳を澄まし、冬には降雪を楽しむ。そんな遊歩道に観光客や地元の人たちが足を止め、遊歩道の季節の移ろいを感じる事ができるというベンチを提案する。



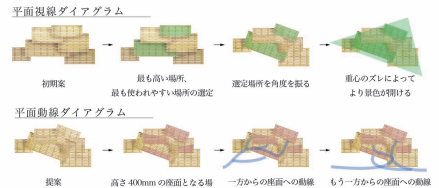
**02 詳細設計**  
デッキの大きさを変えた模型でスタディーを何度も繰り返し最も高く頂ける+400のデッキと、最も高い+1000のデッキの角度を定めることで景色が映っている方向が可動することができ。



**04 構造設計**  
材料の強度と造形を考慮し構造材を500mmピッチで配置した。また斜面に沿った形態であるため斜面上にも基礎を打ち荷重を分散させた。材同士はコーチボルトで接合し、表に隠影の穴が出ないように打ちつけてある。



**06 組み立て**  
材の加工が済み、各ユニットごとに組み上げていく。各ユニットが固定されるために厚み材で固定し、上照みしていく。これまで厚み材もスタディーして原寸ユニットの重なり具合を模倣ではなく原寸大で作り上げいき、一段階上がる度に完成の形が目に入ってくる。最終的に完成品を完成させる。組み上げた部分が一気に隠れ出し完成を感得する事ができた。



**01 基本設計**  
2006年に木匠塾で制作されたベンチの造形・意匠・構造を継承しました。今回制作物を設置する敷地は斜面を使える自由度の高い敷地であったため斜面に添った形態にすることで道に対しての圧迫感を無くし、遊歩道を訪れる人たちの動線を阻害しないように意識した。



**03 基礎打ち**  
今年度の制作物は斜面に寄り添うように設置するため、基礎の精密さが今後の工程に大きく影響する事が事前の会議で予想された。しかし、地中に張り込まれた鉄の木の根が邪魔なため、事前に根を倒すなどの対策を事前に実施したが無事に基礎打ちを完了した。



**05 材の加工**  
仮工程での野暮きに使い、材に加工を施していく。順番としては座面(径35mm)、下伏(径6mm)、背張り、切り出し、筋彫りの順で行っていく。座面、下伏はそれぞれに前加工を施す必要があるため、先に二人で前加工を行った。また、切り出しは新で行ったため座面に切り出さず材の全長が均一にならないなどの問題が発生し、それらの調整により工程に遅れが生じた。



遊歩道 → 市役所や旅館「彩の湯」から森と水の清流館、川上村図書館へ続く遊歩道の最も景色が開けた場に敷地を設定した。

